

第3回 松山市中心市賑わい再生社会実験専門部会 議事録

- 日 時：2015年2月13日（金） 15:30～17:00
- 場 所：松山アーバンデザインセンター1階
- 出席者：10名

次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介

【事務局】

(挨拶、配布資料の確認、委員紹介)

4. 議事

【委員 A】

本日の部会は、施設がオープンしてしばらく時間が経過しており、アンケート等の調査報告を踏まえ、皆さんの感覚と併せて、利用状況について色々議論して、今後の進め方等についての方角性が打ち出せたらと思う。

(1) 前回意見の概要

(2) ひろば・多目的スペースの利用状況

【事務局】

(資料説明 P.1-1～2-6)

【委員 B】

常駐の先生から、数字に出ないところも含めて、これまでの運営に関して気づきを伺いたい。

【委員 C】

11月以降、寒いシーズンということもあり、多目的スペースの利用が多いという可能性もあるので、季節を通して変化を見る必要があるが、女子高生などのリピーターの利用が定着しつつある。

確かに、周知不足は反省すべき点もあるものの、最近では、施設の占用使用の申請件数も多くなっている。

一方で、運営委員会の場でも、多目的スペースやひろばが単なる無料の貸しスペースとして認識されないよう、ルール決めをしていく段階に来ているという実感がある。

【委員 D】

今後の運営の方向性に関しては、社会実験として色々な試行が必要であるが、継続していくためには、何らかの答えが必要となる。

社会実験以降に有料化して運営費とする考え方も可能であるし、一方で、あくまでパブリックな場として無料で提供するという考え方もある。将来的な運営に関してもこの1年で見定めていく必要がある。

【委員 E】

オープン以降、周辺環境が変化し、人々も変化してきている。今は、上手に運営しているので、別に問題ない。地元の意見としては、来年の2月以降の継続がどうなるのかということが重要な問題である。

【委員 F】

順調に推移して、いいものができているという感想をもっている。

商店街の立場としては、施設の継続をどうするのかという心配はあるが、「継続は力なり」ということもあり、継続していただきたいと思う。

【委員 G】

街の活性化にも一役買っていると思う。

【委員 H】

社会実験の目的の1つに、まちなかの活性化という面があったと思うが、その視点では、あまり変化がないという答えが出ているが、それに対しては、今後、どのように考えているのか伺いたい。

【事務局】

まだ3カ月であるため、直ぐに効果は出にくいと考えている。一方で、ひろば利用者のアンケートでは、約3割の方が「来街頻度が増えた」という回答もあり、引き続きデータを積み上げ、効果検証を行う。

【委員 I】

具体的に商店街と連携した活動などは、考えていないのか。

【事務局】

後ほど説明する今後の課題として挙げていきたい。

【委員 J】

ネガティブな意見を拾っていくことも重要である。

【委員 K】

この場所を通ってみると、滞在時間が長くなった人が増えているという感覚はあるが、商店街の流入人口とも比較して、今後まちに人を呼ぶ要素が必要かどうかという検証も必要である。

また、説明にあったように、子育て世代の利用が中心なのであれば、そこをターゲットに変えてもみるなど、トライアンドエラーでいろいろやれる要素が沢山あるというのは強く感じる。

あとは、広報がちょっと弱いと感じている。商店街でビラ配りをするにしても学生たちや商店街の事業などでも、一緒にやれるようなことがあれば、広報活動を通じて、学生たちが参画できていいと思う。

【委員 L】

どのような広報を行っているのか伺いたい。

【事務局】

ホームページ及び現場でのブラックボードによる広報を行っているが、確かに広報が少し弱いことは認識している。

【委員 M】

口コミで広がっていくということも期待される。

松山市では、まちなか居住の促進が重要な課題である。そのため、子ども連れの方々やゆったりと過ごせる場所として割り切って、それに特化させた運営をすることで、ここの機能を十分生かせると思う。

一方、まちづくりに特化し、サークル的な活動を増やしていくという運営も考えられる。そのような理念を、一通りの活動が出てきた段階なので、そろそろ議論していけると考えている。

【委員 N】

各時間帯で異なる世代が集う場として、非常にいい場所である。一方で、お互い知らない者同士が繋がっているのかという点も気になっている。さらに、違った年代の方々が交流し合えるような拠点にもなっていけたらと思う。

【委員 O】

パブリックな場所として、お金で得られないサービスとして、“交流”を目指すことは、アーバンデザインセンターの方向性としてあり得る。かなり難しい議論であるが、重要である。

【委員 P】

日常的な使い方として高校生への定着があるなど、交流の場としての役割はでてきたと感じる。

一方で、この場を維持するビジネスモデル的なことを考えると、経費の負担など、市役所だけではなく、地元商店街も含めたケアも必要となる。

また、“公園・広場”としての定着と“まちづくりの拠点”としての機能との兼ね合いについて、今後どう考えていくのが重要となる。

【委員 Q】

利用者属性について、どこから来たのか、どうやって来たのかなどを詳細に分析していくことで、今後、考えていくヒントになる。

【委員 R】

民間的に考えると、ここは、採算ベースに乗らないと思うが、行政の社会実験として、3カ月で約960名ということは、1日約10名の利用があり、実験としては、大成功である。全国的にみても成功であるので、今後の方向性はより重要になってくる。

【委員 S】

ここ場所の風景が明らかに変わったという意味では大成功だと思う。

(3) 現状課題の整理と今後の進め方**【事務局】**

(資料説明 P.3-1～3-5)

【委員 T】

事務局からの問題提起に対して、幅広く自由に意見を伺いたい。

【委員 U】

施設の規模を考えると、まちなかのメインの施設ではなく、商店街や中心市街地の前菜という棲み分けで、位置づけを明確化していくとよい。

【委員 V】

少し息を抜けるような場所として、まちなかに施設とひろばがセットであることはいいことである。

【委員 W】

市民参加で新しい動きが生まれてくるとか、ワークショップ結果がどう実現されたのかが大事である。更には、社会的な起業やチームが沢山生まれるなどが重要。それらのサポートがここでできるようになると、存在価値が見えてくる。

【委員 X】

この場の運用はルーズなので、アイデアがどんどん出てくる。それを発展させるには、施設が狭いこともあるので、もう一つ違う受け皿みたいな場所があるといい気がする。

【委員 Y】

小さな規模の場所からから発展し、「坊ちゃん広場を使ってやりましょう」、「商店街のアーケー

ドの中でやりましょう」というように、スタートアップの場としてあればよいと思う。

【委員 Z】

当初、銀天街・大街道で空きテナントが15%ぐらいあるということで、銀天街に面した場所の方がいいのではないかという議論もあった。

社会実験期間の中で、どういう場所をつくってまちを盛り上げていくのか、あるいは、まちに住んでいる人のための空間をどうやって提供していくのかなどについて、トータルで考えていく必要がある。

「こう運営してみたい」とか、「これからこうあるべきではないか」などについてご意見があれば伺いたい。

【委員 AA】

現在は、施設の使用を無料としているため、ハードルが低い状態で参加者を募っているが、今後、有料になっても、そこに価値がないとその人たちは継続していかない。

この規模の施設で継続するのであれば、利益も上げて運営していくなど、ある程度、方針を絞ったほうがいいという意見もある。

今の段階では、人を呼び込むためのイベントのアイデアはあるが、運営については具体的なイメージがまだ沸かない。

【委員 BA】

個人的な目で見たとときに、利益を生み出す運用方法がいいのか、税金を投入する運営方法がいいのかどのように考えられるか。

【委員 CA】

遊具をもっと増やして、子供たちが沢山遊べるようにし、向こうとこっちの色分けをはっきり分けてあげるといいとは思っている。

【委員 DA】

向こう側とこちらは使い方を仕分けしてということか。

【委員 EA】

「自分だったら、こうしたらいっぱい来るな」とか、単発イベントなどのアイデアは沢山ある。

【委員 FA】

スモールビジネスを試す、インキュベーションのスペースとしてはいいという意見が出された。小さなビジネスをやる場所としての機能があるので、まちの色々な新しいものを試す場としての意味はあると思う。

【委員 GA】

無料で運営していくのがベストだとは思いますが、市民の方々から付箋でもらった提案をどれだけ拾えるかが重要であり、市民の喜びや利用の継続につながり、仮に有料になったとしても低料金であれば、継続してもらえと思う。

一方で、イベントなどの占有使用後のフォローはどのように行っているのか。今はサイトを中心に運営していると思うが、Twitter や Facebook などの SNS でこちらの動きが見えるようなものや協力者にメルマガを送って繋がりを維持することで、更に口コミで広めてくれることが期待される。

【委員 HA】

ご意見を踏まえると、方向性として、1つは、まちづくりのビジョンの共有や伝播には、もう一步踏み込んだネットワーキングなどの広報を行う。もう一つは、実験的な活動をやってもらって、次の受け皿を用意し、エリア全体に展開していくための最初のセットアップ的な場としていく。3つ目は、憩いの休憩スペースとしてここを位置づけ、静かにマネジメントしていく。という意見が挙げられている。

【事務局】

最近、高校生など、まちづくりに関心のない人が来るようになってきているが、その人たちを、まちづくりにどうやって引っ張り込むかというのが、2段階目の話になってくる。

松山市のまちづくりの紹介ビデオや模型を見せたり、イベントやデザインスクールなど引っ張り込んで、刺激を与え、まちづくりの若い担い手を育てるのが大きいのではないかと。

【委員 IA】

大学よりも柔らかい形で、みんなが参加しやすく、議論したことが次に繋がるという実感が得られるように、フォローも考えていく必要がある。アーバンデザインスクールがその1つであるので、いかに形にしていくかが重要である。

【委員 JA】

難しいけれども、(付箋アイデアの) 総選挙はよく考えたと思う。

【委員 KA】

この例のようにアイデアがすぐ試せて結果が出るというのが、多分、人が一番伸びる。

【委員 LA】

近くにある番町公民館に比べ、ここは地の利もあり、よく集まっている。人が集まりにくい公民館と連携していくというのもあってもいい。

【委員 MA】

場所が適度に変わっていくと、その都度、新鮮な感じもして、便利なところに造っていくこと

で人が集まるというのものもある。

【委員 NA】

コンビニの大きさもこのぐらいで、ちょうどいい規模なのだと思う。

【事務局】

干渉するようで、干渉しないような規模である。

【委員 OA】

今後、色々と知恵や意見を出していくのは、結構だが、個人的には、10年後、ここがどうなっているかと考えると、今ぐらいで構わないという勝手な思いがある。それは、別段、大したメリットがなくても、デメリットもないので、あっても悪いものではないという気がする。

一方で、裏通りにでは、高齢化が進展し、空き家も増えており、その対応もちゃんとしないと、それを放っておいて、こういうことでお茶を濁されたら困る。

空き家を市が買い取り、リフォームして誰かに貸して、投資しないと、木造家屋だけが残され住む人は、いなくなる。地元の間人としては、そういう観点もあるので、この施設を残して人を集めるのは別段、不平はなく、大賛成ではあるが、(そこだけに力を注ぐのは、)「ちょっと話が違ふぞ」という気がする。

【委員 PA】

地域全体としての課題にもどう取り組むかは重要である。

【委員 QA】

大きな街という感覚で考えると、この施設は全然問題ないが、他にも取り組むべき課題はあると思う。

【委員 RA】

事務局側として、まちづくりの活動をどんどん増やしていくという話があったが、事務局が考えているまちづくりの活動というのは、どんなことか。

【事務局】

「まちづくり」というのは、すごく幅広く、いつも困るワードではあるが、賑わい、みんなが参加出来ることが、一つあると思う。

【委員 SA】

「楽しむ」「食べる」「交わる」「考える」などのアイデアが出されているが、お金を出してサービスを受け取るのではなく、この活動のように市民が参加でき、何かを得るといった活動がまちなかに点在し、溢れていくような種が育っていくようになれば良いと思う。

この手の空間は、市が大盤振る舞いで「あと二、三カ所、まちなかにつくってやる」みたいな

ことにはならないのか。

【事務局】

この場所は難しいかもしれないが、ひろばは必要だと思っている。

【委員 TA】

駐車場を借りてひろばを整備・運営することは、安そうに見えるが、経費も結構掛かっている。

でも、市としては、これをあと何か所か銀天街・大街道あたりにつくるというのは、そんなに難しくはないという考えか。

【事務局】

ひろばをつくることでなくてもいいと思う。空き店舗の話があるので、空き店舗と前の空間、例えば大街道・銀天街の空間を使って、何かしらリノベーション、コンバージョンしていくという事は大事だと思う。

【委員 UA】

今回は両方やっているが、市や民間などがそれぞれを整備したり、組み合わせて整備していくことも考えられる。

【事務局】

銀天街でのモデルが出来ていく可能性はあると思う。同じ施設でなくていいと思う。

【委員 VA】

ひろばがあるから、この施設が活きているようにも思う。

【委員 WA】

建物とひろばがセットなので、雰囲気が出るという気がする。

社会実験の一つのモデルだとしたら、建物とひろばのセットが増えていく方が、実験の成果としてはいいのではないかと思う。

目指すべき方向として、このセットの組み合わせによって、どういうことが起きていくのか、あるいはどう起こしていくかを検証することが重要。

地域コミュニティの拠点がここで生まれ、自然発生的に地域の課題を解決するグループが出来るなど。そのようなことが生まれてくると、ひろばで遊んでいる人たちが、更に一歩進める。そのきっかけをどうするかというのは、いろんな投げかけがある。

【委員 XA】

まちなかにひろばと建築がセットで、別の場所での展開も含めて考えていくことがこの1年の課題ではないかと思う。

【委員 YA】

JR 周辺開発の事業にも関わっているが、そこでもどういう拠点をつくるのかについて話題が挙げられるが、ばらばらに話をされている感はある。

つまり、ここでやる意味、商店街の近くにあるからこそ出来ることは何なのかということが見えてこない、という方向に行くかというのも考えにくい。

コンパクトシティの視点から松山全体が融和を図ろうという中で、ここがどんな役割を果たすのかが見えていくと、面白いと考えている。

【委員 ZA】

松山市も拠点事業を幾つか抱えているので、JR 松山駅、市駅、道後など、それぞれでこういう活動が出てくるとよいが、それぞれ場所の個性が出てないとうまくいかないということだと感じた。

この場所は、まちなかであるため“賑わい”や“楽しみ”が一つのプログラムとして、まちに展開されていくように運営会議などにおいてもどうデザインしていくか、センスが非常に重要となる。

【委員 AB】

利用者からの付箋を見ていて思うのが、現実的な問題として、誰がやるのというのがある。アイデアは沢山出てくるが、「私はこれをやりたいから協力してよ」という人がいっぱい出てくるのが大事である。そのためには、色々な声を聞くという場にしていきたいと思っている。

アーバンデザインスクールでは、各大学の先生が関わっているので、先ほど、話にあった空き家問題など、地元の現実的な問題を大学と一緒に考えるというスタイルをやれば、新たなアイデアも出てくる。(オープンして) 3カ月であるが、これから量よりも質を高めていく必要がある。

【事務局】

アーバンデザインスクールの熱気はすごい。まちづくりの担い手として芽が出ているなという気がする、期待している。

【委員 BB】

アーバンデザインセンターはハードの事業にも関わらせてもらっており、情報が入ってくるので、メルマガ等で情報発信していくことは重要だと感じた。

例えば、先般、急きょ「道後でワークショップをやる。こういうのがあるから、興味があったら来てください。」と学生に一齐にメールしたら、メンバーの学生・一般市民の方が来られるなど情報発信の重要性を実感した。

【委員 CB】

個人的には、委員の方々にも関わってもらえとうまくいくのではないかと考えている。

まちづくりの担い手を育てる部分と、まちの楽しみを生み出していく部分の両方をコーディネート

ーションしていくことを先生方や委員の方で出来ると思う。

その時に、「こういう支援があれば」、「これが足りていない」、「こんな難しさがある」みたいなことが何かあると思う。その辺りについてご意見があれば伺いたい。

【委員 DB】

継続していくためには、担い手が育つプラットフォームが必要というところと、アーバンデザインセンターで、興味を持ってもらった人たちをどんどん集めていき、それを例えば、事業化別にチームを作るなど色々な形があっていいと思う。

興味・関心を持ってもらった人たちが入りやすく、尚且つコアがあって、そこが色々なサポートをしながら形をつくって、種が幹になって伸びてというような形が人の組織として出来ていけば、どこでも、その人たちが行けばそのノウハウをそのまま教えて、同じように育ててというのが出来ると思う。

後はそれを運営していくために、どういうものが必要か、どれぐらいの規模の組織がいいのかというのは考えていかないといけない。

【委員 EB】

コアになる人がいて、質の高いサービスが提供出来るようなチームは、実感として、幾つぐらいできているのか。

横浜のアーバンデザインセンターでは、そのような集団が 10、20 ぐらいあり、それぞれがプロジェクトを立ち上げてまちのイメージを変えていくような活動を行っている。そのような集団は出てきそうですか。

【委員 FB】

既存のものはあります。

【委員 GB】

既存の団体は、閉じていたり、固まっていると思う。新しく活動をまちなかで始めようとしている団体があればよい。あるいはそれを育てようという意識でやる必要がある。ワークショップをやるだけではなく、形にしていく必要がある。

【委員 HB】

例えば、4大学の学生の中に保育士を目指す人がいれば、本を子供たちに読んであげるとか、そういった体験をしながら、社会的に勉強する仕組みを学校側とも協力してやれば、学生さんも育つし、子供たちがここを楽しい場所と思ってもらえたら、子供たちはまちが楽しくなると思う。「まちに来るのが楽しい。ここは楽しい場所なんだな」と思えば、そこから、また育つ力がどんどん出てくると思う。1年、2年のスパンではなく、10年、20年のスパンで考えた時に、その子供たちが大きくなって、このまちを活性化していこうという意欲をどこかで生み出す。その先の先を見た動きを考えたらいいと思う。

【委員 IB】

まちづくりにおいても子供への教育は非常に重要である。

【委員 JB】

さらに、昔からまちなかにいる方の知恵や知識と一緒に取り組み、教えてもらい、それが繋がっていくような活動がここで出来ていったら、すごくいい場所になると思う。

【委員 KB】

愛媛大学でもそのような場を用意しながら、できればキャリア教育や起業・就職したりする役割を果たせる応援が最近は少し出来つつある。

【委員 LB】

この場は、4大学で取り組んでいるため、愛媛大学がコアになると思うが、小学生・中学生・幼稚園の子なども含め、オール松山で取り組めるとよい。

まちづくりの活動の種を、ここで育てていくような場所にするということと、そのためには多少緩さがないと入っていきにくいので、あるいは、入ってきたリターンがあるという体制をどうここでつくっていくかというのは、なかなか厄介であるが、今のところ結構いい形で運営できているので、継続していくことが重要である。

また、この場所を発展的に考えると、受け皿をまちなかに広げていくことで、全体に展開し、空き家の対策などの問題にまで取り組んでいくプランづくりも重要である。

アーバンデザインスクールのほうは、4大学が連携し非常に活発に行っているので、地元の方々に是非、ご覧いただき、参考にさせていただくということが大事だと思う。

その他、アンケートを活用し、生活の中での使われ方等、深掘りしていければよい。以上が本日のまとめである。

(4) その他

【事務局】

(資料説明 P.3-6～4-1)

【委員 MB】

アーバンデザインスクールにおいて、4月くらいに発表の場を設けるので、是非、みなさんにもご参加いただきたい。

(質問・意見なし)

5. 閉会

(閉会挨拶)

以上